



Vol.127
2026.7



スパイダーマンではありません…

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

* 網張の森の生き物たち *

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

葉っぱから次々と落下した“ワモンナガハムシ”

暑すぎた昨年に比べると、外を歩いていてもほどよい汗をかく位の、少しゆっくりしたペースで季節が進んでいるような7月のある日、森の中でワモンナガハムシに出会いました。花が咲き終わったツリバナの葉っぱに何気なく目をやると、それぞれの葉の上に小さな茶色い粒のようなものが乗っていました。「何だろう？」と目を凝らすと甲虫のようで、いずれも上翅の下側にスパイダーマンの目のような、黒い縁取りの白っぽい斑紋が見えました。これまで旧正面玄関の手すりや壁面で見かけたことはあっても、5ミリにも満たない小さな彼らを、森の中で見つけるのは至難の業です。「ようやく会えた」じっくり見ようと顔を近づけた途端、「敵が来た！」と感じ取ったのか、瞬時に脚が縮まったようで転がりやすくなった彼らは、葉っぱから次々にコロコロと地面に落ちてしまいました。危険を察知すると体の筋肉の緊張状態が反射的に変化するように、天敵の目から一瞬にして消え去ることで難を逃れるのだとか。全くその通りの落下劇が目の前で繰り広げられ、「もっと慎重に近づけばよかった…」と反省。ある時は落下し、またある時は瞬間に飛び去られ…生き物の観察は、意のままにならないところが面白いと改めて感じた出会いとなりました。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

amiharinomori

What is
“Wamonnagahamushi”?

「白く丸い斑紋のあるハムシ」

ハムシ科

体長：約 4.2～4.8mm

分布：北海道～九州

成虫越冬で、食草は幼虫と成虫共にニシキギ科のマユミ、ニシキギ、クロツルなど。茶褐色の体に黒い縁取りの丸い白い斑紋が目立つ。漢字では「輪紋長葉虫」となり“輪の紋があり細長く葉を食べる虫”。ハムシは他に“金花虫”とも表記される。

(参考図書：「ハムシハンドブック」他)

網張の モモンガ物語



協力：AMK

(網張のモモンガを見守る会)



スギ板製の
「箱型巣箱」



樹洞に近い作りの「丸太巣箱」



第二話「モモンガ」の巣箱を作る！

実際に野生のモモンガの姿を確認するのは容易なことではありません。昼間は樹洞の中に潜み、活発に活動するのは暗闇の中。標高の高い森の奥に棲み、樹間を飛んで移動するのを見つけるのは難しく、網張の森でモモンガの生息場所を突き止める可能性は、ほぼ無いと思われました。そこでモモンガの巣箱を作る考えが浮かびました。モモンガが巣箱に入れば生息を確認できると、単純に考えたのです。野鳥用を真似て作った巣箱を、園路沿いのブナやミズナラに設置しました。一夏を経過し回収したところ、中にモモンガの姿は無く、羽毛や卵の殻など産座が見つかりました。どうやら、野鳥たちには好評だったようです。様々な巣材が使われており、今考えればモモンガの巣材も混じっていた可能性がありましたが、2006年の当時は、そうした知識はありませんでした。

巣箱の中からコテングコウモリが一匹気持ちよさそうに寝入っているのが見つかったのをきっかけに、網張で樹洞性コウモリの調査が2008年から毎年継続して行われるようになったのは、思いがけない成果でした。



コテングコウモリ

この失敗の後、「モモンガに気に入ってもらえる巣箱はどのようなものか」真剣に考えました。大きなヒントをくれたのが、岩手大学農学部で大学院生で樹上性齧歯類の巣箱利用を研究していた中川裕太さん（現山形県立博物館勤務）です。彼が製作した巣箱はスギ板を用いた「箱型」で、底面積 196 cm²・高さ 21 cm・出入口径 4.5 cmと野鳥用のものより一回り大きいものです。西和賀町の調査地に 106 個の巣箱が設置された調査では、モモンガの利用率が 2.6%といった結果が得られたほか、ヤマネやヒメネズミの利用も確認されています。網張ではその基本構造をモデルとして、やや大型のものと小型のものを製作する事にしました。野鳥の短い営巣期間とは異なり、モモンガは長い期間住居として使い子育ても行います。雨風が入りにくい頑丈な作りで、昼間光が入り込まず天敵の攻撃も受けにくいように、長い庇を取り付けました。出入口のサイズが重要で、小さすぎると野鳥に利用され、大きすぎるとムササビやフクロウに入られてしまいます。モモンガ用には、4~6 cmの範囲で穴を開けることにしました。



みんなで巣箱を制作（2025）



12 個の巣箱が完成



脚立を用いた
巣箱の設置作業



ちょうどその頃、自然林と隣接するスギ林をモモンガが好むことを、NHKの「ダーウィンが来た！」という番組で知りました。鳥取環境大学の小林朋道さんの研究によるものです。今まで、「モモンガは自然度の高い広葉樹林を好む」とばかり思い込んでいたので驚きました。本州産クマゲラの専門家である藤井忠志さんの、「クマゲラは、ヘビが登りにくい、幹がまっすぐで下枝のない木の天然樹洞を好む」という指摘は、モモンガにも適用できそうです。また、滑空によって移動するモモンガの生態から、林内にある程度の広い空間が必要に思われました。

巣箱を設置する高さは、日本各地の調査事例を参考に 3m以上を目標とし、出入口の方向は風雪が入りにくい南東にしました。こうして、モモンガ用「箱型巣箱」は、網張の広葉樹自然林とスギ人工林が隣接するエリアで、条件を満たす樹を選んで設置されていきました。モモンガ用新築住宅＝優良物件の分譲開始です。

この「箱型巣箱」とは別に、以前、野鳥用として自然の樹洞環境に近い「丸太巣箱」を製作したことから、これをモモンガ用に応用してみることにしました。森林ボランティアのメンバーから県産スギの間伐材を提供してもらったものを長さ 35 cmで玉切りにし、チェーンソーの「突っ込み切り」という手法で内部をくり抜きます。

板で底と天井を塞ぎ、出入口を開けたらほぼ完成です。作業はビジターセンタースタッフと有志のボランティアで行いましたが、この時のメンバーが後にモモンガの保護調査活動を目的としたAMK（網張のモモンガを見守る会）として活動を続けていくことになります。巣箱の内部を確認できるのは脚立が届く積雪期のみです。

果たしてモモンガが巣箱を利用してくれるかどうか？森が根雪に覆われる季節まで、それまでワクワクしながら待つことになります。

次回、巣箱を利用したのはだれ！？



十和田八幡平国立公園八幡平地域指定70周年を迎えて②

懐かしい写真で振り返る八幡平地域 『小岩井有料道路』

岩手山御神坂登山口駐車場に「開通記念 小岩井有料道路」と記された石川啄木の歌碑があります。小岩井有料道路は、小岩井農場入口から網張温泉までの19.1 kmの路線です。この道路は、十和田八幡平国立公園内網張にある岩手山麓国民休暇村（現：休暇村岩手網張温泉）と小岩井農場を訪れる観光客の利便性向上と地域の観光資源の利用促進を目的として建設されました。工事は昭和44年に開始され、小岩井農場入口から同農場遊園地（現：まきば園）までの6.3 kmは、昭和45年に開催された岩手国体に間に合うように開通されました。この区間は昭和33年まで小岩井駅からのトロ馬車の路線があり、廃止後は砂利道となっていました。

昭和45年7月10日の開通式典では厳かに神事が行われ、テープカットに続き岩手県警察本部音楽隊によるファンファーレが演奏される中、紅白のゴム風船が上空高く舞い上がり、祝賀パレードが行われました。一般公開の一番乗りは、午前1時から開通を待っていた東京都から来た23歳の青年でした。開通当初は沿道に羊や牛等が放牧されていました。カッコーの鳴くカラマツ防風林に沿って緑の牧場を貫いて走る舗装道路の風景は西洋的で素晴らしいとの声も聞かれたそうです。



（有料道路料金所）

網張温泉へ至る12.8 kmは昭和46年8月1日に開通し、全線19.1 kmが開通しました。冒頭の開通記念碑は9月4日に除幕式が行われました。道路敷地から掘り出された安山岩には、当時の千田正岩手県知事が揮毫した石川啄木の歌が刻まれています。料金所は下丸谷地の既設第1ゲートに加え、安達に第2ゲート、正徳沢と有根沢の中間に第3ゲートが新設されました。第1ゲート～第2ゲートまでをA区間、第2ゲート～第3ゲートまでをB区間とし、料金は普通車A区間200円、B区間400円と昭和53年頃の資料に記されています。自転車等の軽両車の料金設定もありました。料金徴収時間は月によって異なりました。

岩手県では平成4年3月に有料道路事業を廃止し、4月1日からは無料で通行できるようになり、路線名も県道219号網張温泉線となり現在に至ります。

（取材協力・写真提供：小岩井農場株式会社 参考：『雫石町史第二巻』『滝沢市の歩み』）

私と十和田八幡平国立公園 「ふる里の山」

盛岡山想会 出堀 宏明 氏

四季の移り変わりは、緯度、土地の高低差や地形等によって影響を受け、一般的に北緯40度前後は、寒暖差もあり紅葉が美しく、最も自然に恵まれた地域と言われています。十和田・八幡平国立公園は、ほぼ北緯40度で西は中国の北京、東はアメリカのワシントンと同じくらいの緯度に位置しています。

長野県の北アルプスでは標高2,800 Mから高山植物が生息していますが、岩手山や八幡平では標高1,200 M付近から亜高山帯となり、美しい高山植物を見ることができます。

私は十代から登山を始め、県内外、国内外の山を歩いてきました。欧州アルプス、ヒマラヤ、南米、中国パミール等の山も登ってきましたが、ふる里の山々、特に岩手山や八幡平エリアの山々の美しさは世界に誇れる山だと思っています。ダケカンバの幹の白さ、アオモリトドマツやブナの原生林、赤いモミジの混じった紅葉の美しさは圧倒的です。この美しい地域をいち早く国立公園にと情熱をもって活動した先覚者をここで紹介したいと思います。



（岩手山とチングルマ）



（ブナ）

雫石町西山の村上三郎氏と盛岡山想会会長赤沢勝三郎氏（当時35才）の二人は、雄大な自然と温泉が湧くこの恵まれた地域を多くの人に知ってほしいと地元の代議士田子一民先生を訪問し、国立公園となるよう陳情しました。若き青年の熱意が伝わり、田子先生は、二人を国立公園委員会の田村剛博士の元へ連れて行って強引に迫って下さいました。しかしながら、田子先生が厚生省へ陳情に通ってもなかなか相手にされず、赤沢氏から手紙が来る、その都度陳情を繰り返しましたが、国立公園に指定されるまでには何年もかかりました。当時と変わらぬ大自然が今も多くの人に親しまれていることを先覚者の方々も喜んでいただいていることでしょう。



（厳冬期八幡平から見た岩手山）

▲・▼ 環境省盛岡管理官事務所からのお知らせ ▼・▲

『十和田八幡平国立公園八幡平地域指定70周年記念フォーラム開催』

7月10日に、八幡平ハイツで「十和田八幡平国立公園八幡平地域指定70周年記念フォーラム」が開催されました。約200名が来場する大盛況の中、東京大学大学院教授の山本清龍先生による講演や、お笑い芸人の庄司智春さん、木村卓寛さんによるトークショー、パネルディスカッションなどが行われ、それぞれの目線から八幡平地域の魅力を語っていただきました。



（パネルディスカッションの様子）

『イーハトーブフィールドブック刊行』



岩手山 国立公園

環境省では、岩手山に何度も登り「国立公園候補地に関する意見」を残した宮沢賢治と岩手山との関わりをまとめたガイドブック「イーハトーブフィールドブック 岩手山 宮沢賢治と出会う国立公園」を作成しました。賢治作品に登場する国立公園内のスポットや、賢治の岩手山登山の履歴を紹介しています。網張ビジターセンターで配布しておりますので、ぜひご覧ください。

6/21「網張の森さんぽ&写真入門」



講師より写真撮影のポイントを教えていただき、雨の森を撮影しながら歩きました。統一テーマをマイツルソウとし各自挑戦。館内に戻りそれぞれがマイツルソウのベスト写真を披露し、講師より一人ひとりに講評をいただきました。「普段は真正面で撮影することが多いので、構図がとても勉強になった」「雨の中の散策はめったに体験できなく、今日は自分も木になったような一体感を感じられた。とても癒しになった」参加者感想より。総勢 16 名

7/4~7/8

「夏の網張の森ヒメボタル観察会」



例年 100 頭以上のヒメボタルの乱舞を観察していましたが、今年は 6 月に気温が低く雨が少なかったため、各日 2 頭から 12 頭の観察となりました。暗闇に目を凝らし、ホタルの光が見えると参加者から「ありがとう」の声。命を繋いでほしいと願いました。

国立公園で楽しむ親子の自然体験

7/18『ナイトハイクと星空観察★』

前日から雨の予報となっていたため残念ですが中止となりました。

ヤマアカガエルの赤ちゃん 今年は 75 匹森へ帰りました!

4/26 に森でヤマアカガエルの卵塊の一部を採取し、成長の様子を館内の水槽で観察していただきました。メッセージコーナーには「元気なカエルになってね」など温かいメッセージやスケッチが多数寄せられました。6/29 に最後の 23 匹が森へ帰りました。



▲・▼ 依頼行事 ▼・▲

5/22 フレンド滝沢「春の遠足」



滝沢市内の中学生 5 名と引率 2 名が、森で聞こえる音に耳を傾けながら網張の森を散策しました。森で拾った若葉を使った創作活動や、野外でのランチタイムなど網張ならではの時間を楽しみました。

7/1 岩手山山開き! 東側規制解除

2024 年 10 月の噴火警戒レベル 2 への引き上げに伴い入山規制が続いていた岩手山



は、7 月 1 日に東側 4 コースの規制が解除されました。2 年ぶりの山開きとなったこの日は、待ちわびていた多くの登山者で賑わいました。なお、西側エリアへの立入規制は続いています。最新情報を確認のうえ、安全に登山をお楽しみ下さい。

インフォメーション



国立公園で楽しむ親子の自然体験

8/8(土)『夏休み!親子で楽しむ だて先生の昆虫観察』

9:30~12:00 網張ビジターセンター集合

講師:伊達 功 氏(岩手虫の会)

定員:親子 10 組 20 名 ※定員に達しました

8/23(日)『草花であそぼう!』

いろんな草花を奏でてみよう♪

9:30~12:00 網張ビジターセンター集合

講師:松木 佐和子 氏(岩手大学准教授)

定員:親子 10 組 20 名 ※要事前予約

10/3(土)『登山ガイドと登る、うさぎ平トレッキング』

9:30~13:30 網張ビジターセンター集合

講師:上村 聡 氏(日本山岳ガイド協会認定ガイド)

(岩手県自然公園保護管理員)

定員:親子 10 組 20 名 ※要事前予約

※上記行事 参加料:大人 800 円 中学生以下 400 円

▲・▼・▲・▼・▲・▼・▲・▼・▲・▼・▲・▼

9/12(土)『おかわりしたくなる!炭火炊飯体験』

10:00~14:00 網張ビジターセンター集合

講師:坂内 信彦 氏(炭焼き人)

定員:15 名 ※要事前予約

参加料:大人 800 円 小学生以下 400 円

7/23~8/27 夏休み特別企画

「網張の森の昆虫たち」

昆虫写真、昆虫標本、チョウ類などの展示に加え、昆虫スケッチやクイズコーナーも設置しています。森の豊かさや生きものについて考えるきっかけに、是非ご覧下さい。



◆◆ 現在開催中のビジターセンター企画展 ◆◆ 7月1日(水)~8月31日(月)

ー工藤 義之 絵画展ー「登山の楽しみを水彩画で描く」



ここ網張ビジターセンターで十数年にわたり絵画展を開かせていただいておりますが、毎回、登山をしていると、いろいろな出会いがありますので、それを水彩画にした絵をご覧いただきたく計画しました。「植物」「湿地帯木道」「山小屋」「頂上に着いた人」「滝」「富士山山小屋」「岩手山を三十六ヶ所から」「出来事」「巨岩石のある風景」など様々なテーマで描いた水彩画をご覧下さい。 - 出展者の言葉より -

モモンガのつぶやき

「エアコン 2027 年問題」と猛暑に関する記事で「消暑」という言葉に出会いました。夏の暑さをしのぐこと。暑さを避けるための方法や避暑そのものを意味し、類義語には「消暑」や「納涼」があると辞書に記されています。不勉強で馴染みのない言葉でした。標高 760m に位置する網張ビジターセンターは正に「消暑スポット」です。近年は暑い日もありますが、木々の緑は目に優しく、森は天然のクーラーです。野鳥の声や水の流れる音も心地よく、体感温度も下がるような気がします。(C)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 5 月 1, 831 人 ◆ 6 月 1, 330 人
朝 9 時のビジターセンター平均気温 ◆ 5 月 9.1℃ ◆ 6 月 12.5℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期 (4 月から 10 月末まで) 休館日なし 9 時~17 時